

# 緑の風 FAX版



NO. 62

2018年12月10日

JR東労組  
本部情宣部

## 12月25日 羽越線脱線事故から13年 事故を風化させず安全第一の職場をつくり出そう！

2005年12月25日19時14分、羽越本線砂越～北余目間を走行中の特急「いなほ14号」が脱線転覆し、5名のお客さまの尊い命が犠牲となりました。

事故の原因については2008年4月に「航空・鉄道事故調査委員会」から報告書が公表され、瞬間風速40メートル程度の局所的な突風で車両が傾いたと結論付け、予見はほぼ不可能であり、事故は避けられなかったものとしています。

しかし、私たちはこの事故を教訓にして、異常気象と言われる昨今ですが、想定しうる自然災害には「防災・減災」の視点から、利用者や組合員の『命』を守る対策を具体的におこなわなければなりません。

また、台湾・韓国においても重大な鉄道事故が発生し原因が調査されていますが、事故の背後要因は異なっても、事故の「真の原因究明」が同種事故の撲滅に向けて重要なことは言うまでもありません。JR東労組は「責任追及から原因究明へ」の安全哲学を継承し、安全文化の構築に向け取り組んできました。

一方、一部職場からは、原因を掘り下げることなく、ミスを起こした当事者への責任追及が行われ、更に懲罰的な日勤教育まで行われているとの報告も受けています。

過去の事故を風化させることなく、内なる運行優先体質と向き合い、『命』を守れる安全第一の職場の構築を目指し、職場議論と原因究明の取り組みをつくり出そう！



※JR東労組は引き続き12月25日現地にて慰霊をおこないます。

## 安全・安定した年末年始輸送を全組合員でつくり出そう！